【2019-01-16】
遊道楽歩（雑感）
書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感
良いビジネス書は
あるが場がない

長野修二

良いビジネス書はあるが場がない

この頃は本を読んでも自分のブログに掲載しないようになりました。
理由は、ただひとつ。
良いビジネス書を読んでも良い場がないと思えるからです。

昨年読んだビジネス書の中でも山口 周著「劣化するオッサン社会の処方箋」や田坂広志著「なぜ、優秀な人ほど成長が止まるのか」の二冊は、読んでみてまったくその通りだと、納得できます。
しかし、この二冊の本を読んでも今の若い人たちには、それほど共感をもって響くとは思えません。

最初に書いたように人が成長できるのは、良い場（仕事そのものと自分がおこなう仕事のまわりにいる人間）の存在によってだと、確信しているからです。
とくに企業で賃金を得る人たちが対象です。
自分で起業したような人は、そもそも他人や場など関係なく、独力で会社を立ち上げていき、むしろ場を作る人になるでしょう。
起業家は、なかなか良い場を作る人ばかりではありませんが、企業の中で働く人間は、良いにつけ悪いにつけ場が必要となります。

今の時代でも仕事自体はいくらでもやりがいがある、そして面白い仕事は沢山あると思いますが、仕事を取り巻く人間をみていると、果たして人を成長させていくような人間性をもっている人がどれほどいるのかと、考えこんでしまいます。
私たちの時代でも多くの人間は、上ばかりをみて仕事していましたが、それでも中には自分の考えをもって、あるいは自分の信念をもって仕事に向かっている人が、少ないですが必ずいました。

経済成長が止まった約３０年の間でビジネスの仕組みも大きく変化してきましたが、その間、人間も経済成長が止まったように成長不足になっているように感じています。
メディアでみる顔ぶれの中でも人間として信念をもって発言している人が何人いるのでしょうか。
政治の世界とて同じでしょう。
ましてメディアに映らない企業の中の人間はと、想像してみます。

中には、不祥事でメディアにでてくる企業人もいますが、人を成

長させていくほどの迫力を感じないのは、私だけでしょうか。

人間といえども環境の影響を受けることは間違いありません。
経済成長がなかったこの期間、現在は好景気といっていますが、
あくまで企業努力というよりは、政府の金融政策によって利益が
積みあがっているだけだと言えるのでしょうか。
欧米企業と比較すれば、たいした利益を出しているわけではあり
ませんが、経営職の報酬だけはグローバルスタンダードになって
きています。
このような体制の中で人が育つとは到底思えません。

良きビジネス書を若い人が読んだとしても多くの人には、成長の
場、なかんずく成長を促してくれる人の存在がみえてこないよう
な気がします。
息子たちに転職より起業を勧めるのは、このような理由からです。
長男は、昨年数社の企業の面接を受け転職を考えていたようです
が、採用内定をもらっても転職しませんでした。
理由は、企業の中の経営職から管理職、あるいは現場の人たちの
姿をみて将来性を感じなかったようです。
当分、今の企業で仕事を続けるようですが、日本社会の同質性か
ら考えてみても他社へ移動してもマネジメント能力は知れていま
す。

所詮、企業とはいつの時代でも人間に行き着くものです。
このような閉塞感はまだまだ続くと考えておいたほうがよいでし
ょう。
そのうえで何をするかを自分なりに焦らず考え、次の行動に移す
ことが大切な時代ではないでしょうか。

良書がピンとこない時代は不幸な時代ですが、このような時代を
作っているのも人です。
良い本を読みなさいと言うことはやさしいですが、社会には、そ
れなりの社会的な背景（良書を実行できるバックグランド）が必

要だということではないでしょうか。

良い本に出会って、思わず考えてしまった２０１８年でした。